



ロート製薬の目薬

ロート製薬が目薬を発売したのは、日本が近代国家への転換をはかる明治42年のことです。
それから約100年。

ロート製薬はさまざまな商品の開発・提供を通して、目薬市場を常にリードし、
お客さまの目の健康を見守り続けてまいりました。

1世紀のあゆみを振り返りながら、目薬市場の“今”をご紹介します。

歴史 ロート製薬の目薬の歴史 1

市場 ロート製薬が牽引する目薬市場の変遷 4

商品 ロート製薬の主なアイケア製品 7

社会貢献 ロート製薬の社会貢献事業 16

参考資料 17

2009年3月

ロート製薬の目薬の歴史

ロート製薬は、1899年(明治32年)に大阪で創業した「信天堂山田安民薬房」がその源流となっています。創業当時発売していた商品は胃腸薬の「胃活(いかつ)」で、目薬が発売されるのは、創業から10年後の1909年(明治42年)のことです。「ロート製薬は目薬が始まり」と思われがちですが、実は最初の商品は胃腸薬で、当時「胃病に胃活、泣く子に乳」のコピーで大ヒット商品となりました。この「胃活」に続く第二の商品として誕生したのが、社名の由来ともなる「ロート目薬」です。



明治32年発売「胃活」

■明治42年、博士の名前から命名された『ロート目薬』誕生

日本にはもともと眼病患者が多く、目薬は古くから販売されていました。日露戦争終結後、眼病トラホームの流行もあり、目薬の需要はさらに高まっていました。そこで1905年(明治38年)、「胃活」に続く商品として目薬の発売を計画。当時、ミュンヘン大学のロート・ムンド博士に師事し最新の目薬の処方を受け取っていた眼科医界の権威である東京眼科病院の井上豊太郎博士の協力のもと、新しい目薬の製造がスタートしました。ここで課題となったのがその商品名です。人々に訴える力を持ち、魅力的で新しいネーミングは何か。「胃活」に続く商品ということで「眼活」が候補にあげられましたが、新鮮味が感じられない…。そこでひらめいたのが、ロート・ムンド博士の名前です。カタカナの商品名をつけた医薬品がほとんどない時代、ロートという語感の良さと欧米列強を目指すこれからの新時代にマッチするだろうとの思いから、商品名は『ロート目薬』に決定。1908年(明治41年)12月に「ロート」を商標登録し、翌1909年(明治42年)4月に『ロート目薬』が発売されます。当初の思惑通り『ロート目薬』は、教師や医師、会社員などの新しく形成された知識層にも支持され、「シマズイタマヌ ロート目薬」のキャッチフレーズとともに一世を風靡しました。発売時の『ロート目薬』は、定価10銭と20銭の2種類。米1キログラムが15銭の時代ですから、決して安いものではありませんが、順調に売り上げを伸ばし、1922年度(大正11年度)には年間総売上100万円(現在の物価に換算して約40億円)を突破し、『ロート目薬』は「胃活」と並ぶ看板商品へと成長していきます。



『ロート目薬』と「胃活」のディスプレイ(大正時代)

●目薬容器の変遷

『ロート目薬』（1909年）



ガラス瓶をコルク栓でしめる容器＋点眼器

『ロート目薬』（1931年）



滴下式両口点眼瓶（一体型）

『V・ロート』（1964年）



プラスチックねじ式。初のポリカーボネート樹脂容器

『ロートジー』（1987年）



ワンタッチタイプのツイスト式

現在の目薬容器



さしやすさやシーンに合わせて容器も豊富に

Q.ロート製薬の社名の由来は？

ロート製薬の社名は、ロート・ムンド博士の処方から誕生した1909年（明治42年）発売の『ロート目薬』がその由来です。

実際社名として採用されたのは、戦後、株式会社化する1949年（昭和24年）と40年も後のことです。この当時、製薬業界では創業者の名前を社名とすることが一般的でしたが、全国的な知名度もあり、また事業の柱でもあった『ロート目薬』の商品名をとり、社名もロート製薬株式会社と名づけられました。

■『ロート目薬』のエポックメイキング“滴下式両口点眼瓶”誕生

昭和初期、このころの『ロート目薬』は当初のガラス管やポンプ式から、ガラス管の上にゴムの袋を付け、ゴムを押して目薬を滴下させるスポイト式に改良されていましたが、目薬の容器と点眼器は別々のものでした。これをひとつのものにするために考えられたのが『ロート目薬』の両口点眼瓶です。

上部の穴にゴムのキャップをはめ、このゴムを押すと下の穴から目薬が出るという設計ですが、この容器の開発は困難を極め、長い歳月をかけてやっと成功。このロート自動点眼器は新案特許を取得、1931年(昭和6年)4月“新しい発明”と謳われ全国一斉に発売されました。このとき旧品を全て新容器と交換したこともあり、一体型という画期的な容器と相まって、『ロート目薬』は一躍トップブランドに躍り出ることになります。

その後、1952年(昭和27年)に抗生物質複合処方『ロートペニマイ目薬』、1958年(昭和33年)に『新ロート目薬』などが発売されますが、この頃はまだガラス容器で、現在のようなプラスチック容器になるのは1960年代に入ってからのことです。その後、ツイスト式キャップや卵形など目薬容器のバリエーションが広がっていきます。

全然變つた新しい發明

新容器のロート目薬

何時、何處でも、
手軽に使へて

改訂容器の効果

在来品と同価格

瓶十二 瓶十二 瓶十三 瓶十五

井上彌生博士処方
中尾藤雄博士監理

山田安民薬房

昭和6年『ロート目薬』新聞広告

ロート製薬が牽引する目薬市場の変遷

現在、日本の市場にはさまざまなタイプの目薬がありますが、これらはどのようにして発展したのでしょうか。ロートの目薬の変遷をもとにご紹介します。

■治療から保健へ

『ロート目薬』が発売されたころから戦後まで、目薬は治療を目的とするものでした。しかし、戦後の経済復興により衛生状態が良くなると、目薬は治療目的から目の健康を考える保健目的へとその役割を拡げていきます。この変化に対応した商品が1958年（昭和33年）発売の『新ロート目薬』です。疲れ目に効果を発揮するビタミンAを配合した『新ロート目薬』は、目の健康維持に役立つ商品として高度成長期の人々に支持され、目薬市場の主流になっていきます。



初めて“疲れ目”をキャッチフレーズにした『新ロート目薬』の新聞広告

■マルチ目薬の時代

保健目薬のコンセプトを継承し誕生したのが、1964年（昭和39年）発売の『V・ロート』です。『V・ロート』は一家の常備薬として、充血にも疲れ目にも使えるマルチ目薬で、大衆目薬の主流となった商品です。

マルチ目薬は、現在でも市場の定番商品となっていますが、80年代ごろから目薬ニーズが多様化し、徐々に市場のセグメント化が始まります。単品商品から少量多品種へと目薬市場が変化していきます。



■セグメント目薬

まず最初に登場したのが、年代別に商品機能を分ける①**年齢セグメント**の目薬です。1970年(昭和45年)に子ども向けの『子どもV・ロート』、87年(昭和62年)に若者向けに清涼感を高めた『ロートジー』、89年(平成元年)には中高年向けの『ロートV40』、94年(平成6年)に女子高生向けの『ロートジーリセ』が発売されます。また、年齢軸とは別に②**機能軸**での目薬も登場。87年(昭和62年)に花粉などによるアレルギー症状対策の『ロート点眼薬アルガード』、96年(平成8年)にコンタクトレンズ対応の『ロートCキューブ』など、ロートの新しい提案によりさまざまなセグメント目薬が登場。TV-CMや広告などのマスメディアのパワーとともに市場を拡大していきます。



『子どもV・ロート』



『ロートジー』



『ロート点眼薬アルガード』

■付加価値型目薬

90年代のバブル崩壊後、ドラッグストアをはじめとするセルフ販売のお店が急増し、低価格競争が始まる一方、目薬は種類が多すぎて選びづらいという声が聞かれるようになりました。そこで、ロートが打ち出したのが機能軸をさらに強化した付加価値型の「解眼新書」シリーズです。

本シリーズは、従来のマスマーケティング中心の戦略とは異なり、セルフの店頭でも商品をより選びやすいようパッケージに効能効果をわかりやすく説明し、店頭での訴求力を高めています。また、機能を特化することで高価格帯でありながらもお客さまからの支持を獲得し、独自のポジションを確立しています。



解眼新書シリーズ『ロート アイストレッチ』

●ロート目薬の変遷

年代	ロートの主な目薬・洗眼薬	主な出来事
明治	●1909年 4月 「ロート目薬」発売	・1905年 眼病トラホーム流行
昭和(戦前)	●1931年 4月 新容器で「ロート目薬」発売	・1928年 健康保険診療報酬制定
1950年代	●1952年12月 「ロートペニマイ目薬」発売 ●1956年10月 「ロートネオマイ目薬」発売 ●1958年 9月 「新ロート目薬」発売	・1945年 終戦 ・1951年 世界保健機構(WHO)加盟 ●治療目的から保健目的の時代へ
1960年代	●1961年12月 「小児用ロート目薬」発売 ●1962年 5月 「小児用 新ロート目薬」発売 ●1964年 2月 「V・ロート」発売 ●1966年 9月 「ロート目薬S」発売	・1956年 テレビの売上急増 ・1961年 国民皆保険実現 ・1964年 東京オリンピック開幕 ●いざなぎ景気 大量消費時代
1970年代	●1970年 3月 「子どもV・ロート」発売 ●1973年 3月 涙液型目薬「なみだロート」 抗菌性点眼薬「サルファロート」発売 ●1973年10月 「V・ロートクール」発売 ●1979年 4月 「新V・ロート」発売	・1970年 日本万国博覧会開催 ●コンタクトレンズ普及 ・1973年 石油ショック ・1977年 平均寿命、男女とも世界一に ・1979年 インペーダーゲーム大流行
1980年代	●1981年 6月 抗菌性点眼薬「ロートSD点眼薬」発売 ●1982年 4月 「ロートハイなみだ」「ロート子どもソフト」発売 ●1986年 2月 「ロートOA1」発売 ●1987年 1月 「ロート点眼薬アルガード」発売 ●1987年 2月 「ロートジー」発売 ●1988年 5月 「なみだロートL」発売 ●1989年 3月 中高年目薬「ロートV40」発売	・1980年 自動車生産台数、世界一に ●花粉症、社会問題化 ・1983年 パソコン・ワープロ普及 ・1985年 「ファミリーコンピュータ」大ヒット ●少量多品種時代 ・1989年 昭和から平成へ ・1989年 消費税3%導入
1990年代	●1990年 3月 「ロート抗菌新目薬」発売 ●1990年 6月 「ロートPRO」発売 ●1991年 4月 「新V・ロートプラス」発売 ●1992年 3月 「なみだロートO2」「なみだロートドライアイ」発売 ●1994年 1月 「アルガード点眼薬クールS」発売 ●1994年 6月 「ロートジーリセ」発売 ●1995年 6月 「V・ロートクールEX」発売 ●1995年10月 「V・ロートEX」発売 ●1996年 2月 洗眼薬「アルガードクールシャワー」発売 ●1996年 2月 コンタクト向け目薬「ロートCキューブ」発売 ●1996年 4月 「ロートジーファイ」「新・ロート子どもソフト」発売 ●1997年 6月 「新・ロート養潤水」 洗眼薬「ロートジーフラッシュ」発売 ●1997年11月 「アルガードCT点眼薬」発売 ●1999年 3月 「ロート キュアラ アイドロップス」発売	・1990年 基準薬局制度(医薬分離)開始 ・1990年 大規模小売店法の規制が緩和 ・1990年 バブル経済破綻 ●ドラッグストア台頭 ・1992年 再販制度見直し ・1993年 Jリーグ開幕 ・1995年 ウィンドウズ95発売 ●テクノストレスによる眼精疲労増加 ・1997年 医薬品の再販指定廃止 ・1997年 消費税5%導入 ・1997年 改正健康保険法施行 ・1998年 長野冬季オリンピック開幕 ・1999年 医薬品規制緩和 ・1999年 ロート製薬100周年 ・1999年 コンピューター2000年問題
2000年代	●2001年 6月 「新V・ロートEX」発売 ●2002年 2月 「新V・ロートEX 大容量」発売 ●2002年 4月 解眼新書 第1弾「ロートアイストレッチ」発売 ●2002年 5月 解眼新書 第2弾「なみだロートドライアイ」発売(リニューアル) ●2003年 5月 解眼新書 第3弾「ロートUVキュア」発売 ●2003年 7月 解眼新書 第4弾「ロート養潤水」発売(リニューアル) ●2004年 5月 解眼新書 第5弾「ロート抗菌目薬EX」発売 ●2004年 6月 解眼新書 第6弾「ロートドライエイド」 ●2004年6月 「ロートジーコンタクト」発売 ●2005年1月 「ロートアルガードクールEX」発売 ●2006年 1月 解眼新書 第7弾「ロートクリア」発売 ●2006年2月 「ロートリセコンタクトa」発売 ●2007年 4月 解眼新書 第8弾「ロート抗菌目薬i」発売 ●2008年4月 「ロートCキューブダブルチャージ」発売 ●2008年5月 「ロートV11」発売 ●2008年10月 「ロートドライエイドEX」「ロートドライエイドコンタクト」発売 ●2009年1月 「ロートアルガードクリアブロック」「ロートアルガードST点眼薬」	・2000年 IT革命 ●ドライアイ急増 ・2001年 ウィンドウズXP発売 ・2002年 サッカーW杯、日韓で開催 ・2003年 医療費3割自己負担へ ・2004年 ニンテンドーDS、ソニーPSP発売 ・2005年 iPod流行 ・2006年 トリノ冬季オリンピック開幕 ・2006年 地上デジタル放送で開始 ・2007年 ウィンドウズVista発売

ロート製薬の主なアイケア製品① ロングセラーブランド「V・ロート」

ロートの目薬のフラッグシップとなるブランドが、初代の発売から40年以上の歴史を持つ「V・ロート」です。回転が速いと言われるOTC業界において、長く愛されるロングセラーブランドの概要をご紹介します。

■1964年 初代『V・ロート』誕生

「新V・ロートシリーズ」の前身となる『V・ロート』は、1964年(昭和39年)2月、ロート製薬初のプラスチック容器の目薬として発売されました。

清涼感があり、かつ目の健康にいい新目薬を開発することを命題に開発がスタート。当時、栄養剤の有効成分として注目されていたアスパラギン酸塩に着目し、目では確認されていなかった目の細胞を賦活化する効果を実証し、いち早く配合しました。また、成分だけでなく、その清涼感にもこだわり、メントールなどの清涼成分の組み合わせを数多く試して、目に最も心地よい刺激を追求しました。容器は当時プラスチック目薬の定番だった三角ではなく角型を採用し、さらに点眼のしやすさにも工夫を凝らしています。

「V・ロート」のVには、Vitamin(ビタミン)、Vivid(いきいきとした)、Victory(勝利)の意味が込められており、処方・効能・容器のあらゆる点から、ロート目薬の半世紀の歴史にふさわしいフラッグシップ商品として誕生しました。



初のポリカーボネート樹脂容器
『V・ロート』(15ml/250円)

■1979年 マルチ目薬の決定版 二代目『新V・ロート』

『V・ロート』の発売から15年、その間に『子どもV・ロート』(1970年発売)、涙液型目薬『なみだロート』、清涼感を高めた『V・ロートクール』(ともに1973年発売)など特定の需要層向けの商品を発売してきましたが、市場の中心となるのは、『V・ロート』のようにマルチに使える複合型目薬でした。

そこで『V・ロート』のリニューアルに際しては、家庭の常備薬として誰もが使えることを念頭に、抗炎症成分のグリチルリチン酸二カリウムを配合し、その効き目をさらに強化しました。

「V・ロート」シリーズには、①疲れ目や充血などこれ1本でマルチに効くタイプの目薬であること ②新たな組み合わせで有効成分を追加配合することの2つに加えて、二代目からは、③信頼と効き目を示すグリーンをキーカラーに「V」の文字を大きくデザインすること ④金冠キャップの採用が「V・ロート」シリーズのDNAとなり、現在も踏襲されています。

1979年(昭和54年)4月に発売された『新V・ロート』は、初代の2倍以上の価格だったにもかかわらず市場を席巻。V・ロートの名称とVのパッケージが大衆薬目薬の代名詞となりました。



複合型目薬『新V・ロート』
(15ml/580円)

■1991年 目の疲れに 三代目『新V・ロートプラス』

時代は昭和から平成に変わり、パソコンやゲームなどのテレビモニターが生活の中に浸透し始めた1991年(平成3年)4月、「V・ロートシリーズ」の三代目『新V・ロートプラス』が誕生します。

『新V・ロートプラス』は、当時増え始めていた目の疲れに効果的なパンテノールを配合し、目のかすみや疲れに対応する機能を強化する処方となっています。さらに『新V・ロートプラス』では目薬の機能を追求するため臨床試験を実施し、フラッグシップブランドにふさわしい効果を検証しました。



『新V・ロートプラス』
(15ml/880円)

■2001年 目の乾きによる疲れにも 四代目『新V・ロートEX』

そして2001年(平成13年)、現在も発売中の『新V・ロートEX』が発売されます。このころは、パソコンやケータイの使用が日常的になり、それに伴い目の乾きによる疲れを訴える人が増えてきます。

『新V・ロートEX』では、三代目『新V・ロートプラス』の処方に涙の成分のひとつであるコンドロイチン硫酸ナトリウムを追加し、時代のニーズに対応しています。

また、長年ご愛用いただいているお客さまの声に応え、翌2002年(平成14年)には市販目薬の基準内最大容量である20mlタイプも追加発売。

同一ブランドで2つの容量タイプをラインナップしているのは、市販目薬では『新V・ロートEX』だけです。40年以上の歴史をもつ「V・ロート」シリーズだからこその展開です。

「V・ロートシリーズ」は、Vのマークとグリーンをキーカラーに、マルチに効く家庭常備薬の定番目薬として、お客さまの声に的確に対応し、これからも長く愛される商品づくりを目指しています。



『新V・ロートEX』(13ml)
(第2類医薬品/税込788円)



『新V・ロートEX 大容量』(20ml)
(第2類医薬品/税込924円)

■2008年 国内最多*の11種類の有効成分を配合 『ロートV11』

今までご紹介した『新V・ロートEX』以外にも、「ロート」と「V」のブランド力と実績を活かしたさまざまな商品を取り揃えています。

中でも、2008年5月に発売した『ロートV11』は、目を酷使用する現代人の、休みたくても休めないつらい疲れ目を改善する目薬です。働き続けて疲れた目のための成分を選び抜き、国内最多*の11種類の有効成分を配合しています。

※日本医薬品集一般薬2008-2009年版



『ロートV11』(13ml)
(第2類医薬品/税込1365円)

ロート製薬の主なアイケア製品② 付加価値型ブランド「解眼新書」

マルチに効く「V・ロート」シリーズに対して、より機能性に特化したブランドが「解眼新書」（かいがんしんしょ）です。「解眼新書」とは、18世紀に日本の医学の振興を目指して翻訳された“解体新書”の思想のもとに、ロート製薬がこれまでに培ってきたノウハウと最新技術で、現代人の目の疾患をあらゆる方向から見つめ直し応えたい、という想いを託した機能特化型目薬のシリーズです。

本シリーズには現在6商品（本シリーズから派生した商品を合わせると10商品）がラインナップされていますが、その中から代表的な商品の開発ストーリーをもとに、商品に込めたロートの想いをご紹介します。



「解眼新書」シリーズの
ロゴマーク

解眼新書シリーズ

現代人の目のコリをときほぐせ『ロート アイストレッチ』



『ロート アイストレッチ』(12ml)
(第2類医薬品／税込924円)

同じ姿勢を長時間続けていると筋肉が疲れ、肩や腰が凝るように、目も使い続けると疲労します。「目でモノを見る」ことは、目の焦点を合わせピントを調節する筋肉の毛様体筋（もうようたいきん）が休みなく緊張（収縮）を続けている状態です。気がつかない間に目の筋肉が疲労し固まると、目のピントが合わない、目がかすむなど目の筋肉の“コリ”症状があらわれます。疲れた筋肉をときほぐすように、コリかたまったピント調節筋をほぐすメチル硫酸ネオスチグミン配合で、疲れ目を改善します。

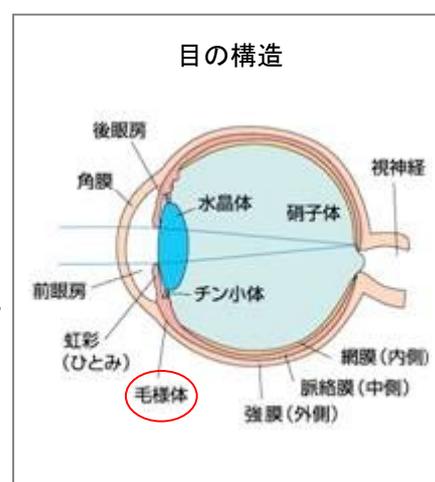
■テクノロジーの進化が目に負担を強いる

現代人にとってパソコンやケータイはなくてはならない情報ツールとなっています。人間の目は、これらの情報ツールから脳に最も多くの情報を伝える入力デバイス。多くの情報を得ようとすればするほど、目にはかなりの負担が強えられることとなります。それまでも目の疲れを癒す目薬はありましたが、急速なOA化が目の疲労に大きな影響を与えることから、OA化に対応した新目薬が求められるようになりました。このような社会背景のもとに、パソコン1人1台時代に合う新しい目薬の開発がスタートしました。

■肩コリに湿布を貼るように、毛様体筋にダイレクトに届け

パソコンによる目の疲れの原因のひとつが、目のピントを調整する毛様体筋の疲労であることは明らかにされていました。しかし、毛様体筋は角膜の強力なバリア機能に保護されているため、目薬でアプローチするという発想はそれまでありませんでした。

プロジェクトチームでは、目の疲れを癒すには、毛様体筋に直接アプローチすることが必要なのでは、と新しい視点を発案。この考えに基づき、角膜を通過して毛様体筋に効果的にダイレクトに働くことに着目して、その浸透性を解き明かすための研究が連日続けられました。



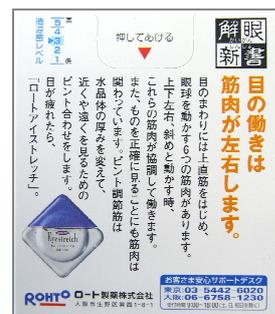
■研究から2年もの歳月をかけて

「角膜への浸透性は目薬の成分バランスによって微妙に異なる」。

このヒントをもとに、成分や配合量のバランスを変えた膨大な量の研究に取り組みました。この研究が無限に続くかと思われたとき、ある条件下で行った実験で有効成分の浸透性が高まることが突き止められ、ゴールにやっとたどり着くことができました。プロジェクトスタートから早2年の月日がたっていました。

浸透性に徹底してこだわった『ロート アイストレッチ』が、解眼新書シリーズの第1弾として商品化されたのは2002年(平成14年)4月のことです。

『ロート アイストレッチ』の商品パッケージには、目の酷使により疲れてコリ固まった毛様体筋にダイレクトに届き、目の疲れに効くことが見てわかるよう、目玉のイラストに矢印(写真右上)で表示されています。また背面には、目の機能をわかりやすく文章化し(写真右下)、商品の機能を明確に伝える工夫をほどこしています。



睡眠中の目の修復に着目した『ロート 養潤水』



『ロート 養潤水』(13ml)
(第3類医薬品/税込924円)

私たちの瞳は眠っている間も疲れを癒し、細胞の修復を続けています。『ロート 養潤水』は、目自体がもつ睡眠中の修復過程に着目して効果的な成分を選択し、おやすみ前にも使っていただくことを考えてやさしさを兼ね備えた処方設計しています。また、美容成分でおなじみのヒアルロン酸ナトリウム(粘稠剤)を配合したしっとりとしたさし心地です。さらに目にやさしい目薬とするために、有効成分は全て瞳にある成分とし、pHも涙と同じ7.4と徹底。そのこだわりは「養う、潤す、水のチカラ」の名前に込められています。

■お客さまの声からプロジェクトがスタート

製品にお客さまのご意見を伺うアンケートハガキをつけることがほとんどなかった当時から、ロート製薬はこのシステムをいち早く採用しており、お客さまの声をいかす姿勢が隅々にまで浸透しています。今回の商品は、お客さまからのアンケートはがきが開発のきっかけになりました。

『ロート 養潤水』の前身にあたる『新・ロート養潤水』は、1997年(平成9年)に発売された高齢者向けの商品です。高齢者の目薬ニーズは目やにを抑えることで、必要なのは目を清潔にし新陳代謝を良くする栄養成分。従来品は有効成分がビタミンやアミノ酸などの栄養成分だけで作られた特徴的な商品であり、高齢者が寝る前にもさせる「おやすみ前にも一滴」のキャッチコピー通りの目にやさしい目薬です。そんな高齢者向けの商品に、近年、OL層を中心とした若い女性からのアンケートはがきが多く寄せられるようになったのです。

その理由は「パソコンの利用やコンタクトの長時間装用で、日中、目に負担をかけているから」。女性ユーザーにアンケートを行った結果、目への負担を実感する女性が非常に多く、既存製品の目にやさしい処方と「おやすみ前にも一滴」のコピーが、お年寄りのみならず若い女性の支持を獲得していることがわかりました。そこで、解眼新書シリーズにふさわしく、やさしさに徹底してこだわりながらも、睡眠時に目のダメージを修復する目薬としての進化が決定しました。



高齢者向けの『新・ロート養潤水』

■多くの女性に支持されるための数々のこだわり

さっそく、角膜の細胞レベルでのダメージ修復を検証する実験がスタート。その結果、角膜上皮細胞は光を当てたときより、遮断した方が細胞の増殖率が1.5倍に高まることが実証されました。この機能をもとに、従来品の「おやすみ前にも一滴」を踏襲し、日中ダメージを受けた目をやさしく養い、瞳に潤いをもたせ修復させることを開発コンセプトに設定。目を「養う」ために目への刺激のない瞳にある成分だけを使用し、「潤い感」をもたせるために瞳にもあるヒアルロン酸ナトリウム（粘稠剤）を配合、かつ、やさしい「水」であるようにとそのpH値も涙と同じ7.4に徹底。さらに、愛用者の多くが女性であることから、美容液をイメージさせるパッケージデザインや、男性では気付きにくい香りにまでこだわって『ロート 養潤水』が誕生しました。

従来のお客さまの満足度を下げることなく、新たなお客さまが求めるニーズに対応することは、たやすいことではありません。『ロート 養潤水』は、女性スタッフの意見を取り入れ徹底してこだわった結果、高齢者の方から若い女性まで、幅広いお客さまの支持を得る商品になることができたのです。



瞳に水分をキープせよ 『ロートドライエイドEX』、『ロートドライエイド コンタクト』



『ロートドライエイドEX』、『ロートドライエイドコンタクト』
(ともに第3類医薬品/7ml/税込1,155円)

急増するドライアイ(目の乾き)の緩和に焦点を絞った『ロートドライエイドEX』と『ロートドライエイド コンタクト』は、“涙を補給し涙をキープする”という発想から生まれたロート独自の技術が詰まった目薬です。

当初、「ドライエイド」は「解眼新書」シリーズの1品として2004年に発売されましたが、現在では症状の程度やコンタクト装用などにより選べる計4品の「ドライアイ(目の乾き)対策」シリーズとして独立・発展しています。

ドライアイは、涙の量が減ったり、涙の質が変化することで目の表面に障害が生じる病気です。長時間、コンピューターやテレビゲームなどをしていると、通常1分間に20回のまばたきが5回にまで減少し、目が乾いてしまいます。この目の乾きがドライアイの原因のひとつです。目の乾きを招く原因はさまざまですが、現在、日本のビジネスマンやOLの3/4が潜在的ドライアイ患者という報告もあります。

■補給からキープに。高粘度の目薬を求めて。

涙が不足して起こるドライアイ(目の乾き)には、従来、涙と同じ成分を補給することで症状を緩和する目薬が使用されており、当社商品では『なみだロートドライアイ』などがそれに対応しています。

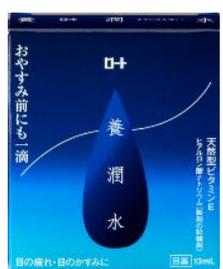
しかし、より症状がつかなくなると、涙を補給するだけではなく、水分を瞳にキープして涙の蒸発を抑制する働きをもつ、とろみのある超高粘度の目薬がおすすりめです。目薬に粘度をもたせること自体は技術的にはそれほど難しいことはありませんが、目薬の製造工程にある「ろ過滅菌」が大きなネックとなります。製剤から不純物を取り除き無菌化するこの工程では、通常のろ過フィルターでは高粘度の製剤は目詰まりを起こしやすい上に、製造に長い時間がかかってしまいます。つまりその分、製造コストがかさみ、店頭価格にはね返ってしまうのです。今後も増加が予想されるドライアイ(目の乾き)症状に有効な目薬を、手軽に買える市販薬として完成させたい。高粘度、成分、さし心地、そしてコスト。これらの全てを解決すべくプロジェクトがスタートしました。

■粘度約60倍※のとろみ目薬

目薬にとろみがありすぎると、点眼時にまぶたにくっつきさし心地が悪くなり、製造においても通常の製造ラインも通ることができなくなります。とろみを下げれば、さし心地は向上し製造も容易になりますが、本来の涙をキープする力が弱くなってしまいます。試行錯誤の上、導き出された最適な粘度は、通常目薬の約60倍※という数値でした。この高い粘度を短時間でろ過させるためには、専用のフィルターが必要です。さまざまな素材のフィルターと調合バランスの異なる粘度60倍の製剤で、何通りもの組み合わせで検証を行い、ようやく実験室レベルでのろ過フィルターの通過に成功しました。しかし、実際の製造ラインで実験室通りに成功するとは限りません。そこで、これまでに前例のない実機での検証がスタート。製造ラインが使えるのは夜間の6時間のみ。連日の検証を繰り返し、粘度約60倍※、機能にもさし心地にもこだわったドライアイ(目の乾き)対応の『ロートドライエイド』が完成。そして、その価格は当初予定したよりも低く抑えることができ、約60倍※という超高粘度のOTC目薬が誕生しました。

※当社目薬「ロートアイストレッチ」との比較

●解眼新書シリーズ

<p>『ロート アイストレッチ』 (2002年4月発売)</p>  <p>(924円)</p>	<p>『ロート UVキュア』 (2003年5月発売)</p>  <p>(924円)</p>	<p>『ロート 養潤水』 (2003年7月発売)</p>  <p>(924円)</p>
<p>『ロート 抗菌目薬EX』 (2004年5月発売)</p>  <p>(1,029円)</p>	<p>『ロート クリア』 (2006年1月発売)</p>  <p>(1,260円)</p>	<p>『ロート 抗菌目薬 i』 (2007年4月発売)</p>  <p>(1,029円)</p>

●「ドライアイ(目の乾き)対策」シリーズ:「解眼新書」シリーズから独立・発展して2008年10月に誕生。

<p>ロートドライエイドEX</p>  <p>(1,155円)</p>	<p>ロートドライエイド コンタクト</p>  <p>(1,155円)</p>	<p>なみだロートドライアイ</p>  <p>(735円)</p>	<p>なみだロート ドライアイ・コンタクト</p>  <p>(735円)</p>
--	--	---	---

ロート製薬の主なアイケア製品③ コンタクトレンズ関連ブランド「ロートCキューブ」

キューブとは英語で3乗の意味。Clear(クリア)、Care(ケア)、Comfort(快適)の3つのCの働きが、コンタクトレンズ環境を快適にサポートします。「ロートCキューブ」シリーズは、目薬、コンタクトケア剤、洗眼薬とコンタクトケアをトータルに提案するブランドです。



『**ロートCキューブ アクアチャージ i**』 第3類医薬品(13ml/税込578円)
コンタクトレンズユーザーの多くが感じる「目の乾き」、「目の疲れ」などのコンタクトレンズによるさまざまな目の不快症状に効果を発揮します。ミネラル成分配合で、やさしくしめない、マイルドなさし心地です。

※2009年4月9日にリニューアル新発売(新パッケージ)



『**ロートCキューブ クールチャージ i**』 第3類医薬品(13ml/税込578円)
コンタクトレンズに悪影響を与えることなく、クールな清涼感を発揮する目薬です。

爽快でクールな一滴が目の疲れをリフレッシュ。目の乾き、レンズの違和感など装用中ならではの不快感をやわらげます。

※2009年4月9日にリニューアル新発売(新処方・新パッケージ)



『**ロートCキューブ モイスチャージ i**』 第3類医薬品(13ml/税込683円)
コンタクトレンズ装用による「目の乾き」「目の疲れ」が特に気になる方に、たっぷりうるおう目薬です。角膜保護成分&うるおいベール処方で、とろみもたっぷり。また、目のエネルギー源となるブドウ糖配合で、目の疲れを効果的に回復します。しめないさし心地です。

※2009年4月9日にリニューアル新発売(新パッケージ)



『**ロートCキューブ アイスチャージ i**』 第3類医薬品(13ml/税込683円)
氷のように冷たく強いクール感と、瞳のうるおいが深く広がるさし心地です。

気持ちのよい清涼感が持続し、うるおいが目の疲れを癒します。

※2009年4月9日にリニューアル新発売(新処方・新パッケージ)



『**ロートCキューブ ダブルチャージ**』 第3類医薬品(18ml/税込788円)
コンタクトレンズ装着液と目薬の2つの機能が1本になった目薬です。目の乾きや疲れを感じた時に「目薬」として点眼したり、レンズを装着する際に「装着液」として使用することが出来ます。たっぷり使える18mLの大容量サイズで、しめないさし心地。全てのコンタクトレンズ(ハード・O2・ソフト・使い捨て)に対応しています。

ロート製薬の主なアイケア製品④ 花粉対策のトータルケアブランド「アルガード」

「アルガード」は、目薬をはじめ洗眼薬、鼻炎用内服薬、点鼻薬、鼻洗浄液、マスクなどの幅広い品揃えで、花粉対策をトータルで提案する総合ブランドです。花粉特有のつらい症状をやわらげるなどの様々な製品を有しており、花粉症状に悩む方ご自身が、その症状や使用場面などに合わせた商品を選ぶことができます。

【目薬】 目のかゆみや充血など、出てしまったつらい症状に		【洗眼薬】 目の花粉・ほこりを洗い流す
	ロート アルガード クリアブロック 第2類医薬品 (13ml/1,659円)	ロート アルガード ST点眼薬 第2類医薬品 (13mL/1,470円)
商品		
	<ul style="list-style-type: none"> ・抗アレルギー剤「クロモグリク酸ナトリウム」と非ステロイド性抗炎症剤「プラノプロフェン」を配合した史上初のアレルギー専用目薬。 ・アレルギー症状が続き、かつ炎症を伴う方に。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー症状の発生を原因から抑え込む、抗アレルギー剤「クロモグリク酸ナトリウム」を配合したアレルギー専用目薬。 ・出てしまった症状にも効果を発揮。
		アルガード 目すっきり洗眼薬α 第3類医薬品 (500ml/1,365円)
		<ul style="list-style-type: none"> ・「ぷにょカッパ」の高い洗浄力と清涼感で目、爽快！ビタミンB₆をはじめ、5つの有効成分を配合し眼病予防に効果的。

【目薬】 目のかゆみや充血など、出てしまったつらい症状に			
	ロート アルガード 第2類医薬品 (10ml/977円)	ロート アルガードs 第2類医薬品 (10ml/977円)	ロート アルガード クールEX 第2類医薬品 (13ml/1,470円)
商品			
	<ul style="list-style-type: none"> ・花粉対策用目薬でトップシェアを誇る※1、スタンダードタイプ。 ・充血、かゆみにスーッと効く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しみないマイルドタイプの花粉対策用目薬。「アルガード」の確かな効き目はそのまま、やさしいさし心地の目薬。清涼感が苦手な方や小さなお子さまに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目への滞留性をより高めた花粉対策用目薬。確かな効き目に加え、清涼感が持続します。実績のある抗炎症剤アズレンスルホン酸ナトリウム配合。

※1:2007年度販売個数より(ロート調べ)

* 価格は全て税込

ロート製薬の主なアイケア製品⑤ 洗眼薬

洗眼薬は、目を洗い眼病を予防する薬です。ロートCキューブシリーズの洗眼薬では、下を向いたままでも洗眼できるやわらかフィットの「ぷにょカップ」をオリジナルで開発し、採用しています。



『**ロート フラッシュ**』 第3類医薬品(500ml/税込1,155円)

組織の炎症を起こす物質が生まれるのを抑えるグリチルリチン酸二カリウム、抗ヒスタミン剤マレイン酸クロルフェニラミン、アミノ酸のL-アスパラギン酸カリウムを配合した目の洗浄と眼病予防に効果的な洗眼薬です。スッキリ爽快な清涼感で、目の洗浄感が実感できます。



『**ロート フラッシュクール**』 第3類医薬品(500ml/税込1,155円)

『ロート フラッシュクール』は、これまでにないクール感が持続し目の洗浄と眼病予防に効果的です。洗うたびに好感度の高い清涼感を味わえる洗眼薬です。



『**ロート ビタフラッシュ**』 第3類医薬品(500ml/税込1,155円)

コンタクトレンズユーザーの瞳は傷ついたり、乾いたり…。そんな瞳のために洗浄効果や有効成分にこだわった洗眼薬が『ロート ビタフラッシュ』。ビタミン配合で、コンタクトレンズをはずした後の目の汚れをやさしく洗い流し、瞳をいたわります。



『**ロートCキューブ アミノモイスト**』 第3類医薬品(500ml/税込1,365円)

コンタクトレンズを装着している瞳には、多くの負担がかかっています。レンズをはずした後は、うるおいたっぷりの洗眼薬で瞳の汚れを洗眼。『ロートCキューブ アミノモイスト』は、角膜保護成分であるコンドロイチン硫酸ナトリウムをはじめ、3つのアミノ酸類と2つのビタミンの栄養成分がじんわり広がる、瞳をリラックスさせるような洗い心地です。



『**ロートCキューブ クールモイスト**』 第3類医薬品(500ml/税込1,365円)

コンタクトレンズを装着している瞳には、多くの負担がかかっています。レンズをはずした後は、うるおいたっぷりの洗眼薬で瞳の汚れを洗い流したいもの。『ロートCキューブ クールモイスト』は、クールな使用感が気持ちのいい洗眼薬。すっきり爽やかに洗い上げて、瞳をリフレッシュさせます。

ロート製薬の社会貢献事業「ロート アワード」

ロート製薬では、事業活動以外に地球市民として社会貢献活動を実践しています。中でも、当社の「目」に対する想いは深く、創業者山田安民が奈良県初となる盲学校の設立を支援したことに始まり、盲導犬育成や「ブラインドサッカー」の支援、眼科研究の発展を支援する「ロート アワード」など様々な社会貢献活動を行っています。ここでは、「目」に関する社会貢献活動として「ロートアワード」、「薬育」、「かるがも基金」についてご紹介します。

■眼科分野に特化したロートアワード

「Rohto Award(ロート アワード)」は、日本の眼科研究の発展・向上を目指し、日本の大学およびそれに準じる研究機関の若手眼科研究者を対象に毎年表彰する賞で、1995年(平成7年)に設立されました。

著名な眼科医で構成された選考委員会の厳正かつ公正な審査により、すぐれた研究を行っている研究者に表彰と副賞を授与しています。2008年には第13回を数えますが、純粋に研究を支援する賞として眼科研究者の間で評価が高まり、数多くの受賞者が教授として学問に専心するなど、若手研究者の登竜門と呼ばれる権威ある賞に発展しています。



ロート アワード

■眼科分野をリードする人材の輩出

本賞の特色は、若手であることと同時に、基礎研究と臨床研究両方の業績を上げた研究者に贈られることです。専門領域のみに陥ることなく、手術や患者データにも精通し品性にもすぐれた、文字通り、眼科の将来を背負って立つ研究者にスポットを当てています。受賞を機に飛躍的に成長し、学問の世界をリードする人材を輩出しているのも、この賞の特色が生かされた大きな成果といえます。

第1回	山下英俊(山形大学) 「眼組織におけるTGF-βスーパーファミリーのはたらき」	第8回	吉田和彦(北海道大学) 「蛋白質の産生・分解と眼の病態・生理」
	中沢 満(弘前大学) 「遺伝性網膜変性症の遺伝子異常とその臨床像」		柏木賢治(山梨大学) 「種々の疾患モデルを用いた網膜神経節 細胞死の発症機序とその保護方法の検討」
第2回	西田幸二(東北大学) 「ランダムシーケンスによるヒト角膜上皮細胞の遺伝子発現の解析」	第9回	石田 晋(慶應義塾大学) 「網膜血管病態における細胞分子生物学と疾患治療の可能性」
	大黒 浩(札幌医科大学) 「視興奮関連蛋白質と網膜及び視神経疾患」		畑 快右(九州大学) 「糖尿病網膜症の病態形成メカニズムに関する基礎的研究」
第3回	坂本泰二(鹿児島大学) 「脈絡膜血管関連疾患の病態解明と治療の可能性」	第10回	玉置泰裕(東京大学) 「高分子ナノミセルの眼科領域への応用」
	渡辺 仁(大阪大学) 「角膜上皮由来ムチンについて ―その存在及び臨床的意義―」		園田康平(九州大学) 「眼の恒常性維持における自然免疫担当細胞の役割」
第4回	水木信久(横浜市立大学) 「ペーチェット病の原因遺伝子の検索」	第11回	福島敦樹(高知大学) 「動物モデルを用いたアレルギー性結膜炎疾患重症化メカニズムの解析」
	緒方奈保子(関西医科大学) 「網脈絡膜疾患と細胞増殖因子・サイトカイン ―実験モデルでの検討―」		富所敦男(東京大学) 「視神経乳頭血流の自動調節能と点眼薬の視神経乳頭血流への影響」
第5回	大鹿哲郎(筑波大学) 「角膜不正乱視の定量化」	第12回	中村 誠(神戸大学) 「網膜内インスリン情報伝達と神経変性眼疾患との関わり」
	堀田喜裕(浜松医科大学) 「難治の遺伝性眼疾患の原因究明と遺伝相談」		加治優一(筑波大学) 「蛋白糖化最終産物および右旋性アミノ酸と眼疾患」
第6回	山本修士(大阪大学) 「眼科領域における遺伝子診療」	第13回	中澤 徹(東北大学) 「動物病態モデルから学ぶこと:臨床のブレークスルーを目指せ!」
	高木 均(京都大学) 「糖尿病網膜症と血管調節因子」		稲谷 大(熊本大学) 「糖鎖による視神経ガイダンス制御機構の解明と眼疾患モデルへの展開」
第7回	天野史郎(東京大学) 「眼血管新生・糖尿病眼合併症のメカニズム」		
	近藤峰生(名古屋大学) 「臨床および基礎研究における新しいERG解析法」		

ロート製薬の社会貢献事業「薬育」「かるがも基金」

■薬の正しい使い方を伝える「薬育」(やくいく)

「薬育」とは、次世代を担う子どもたちに薬の正しい知識を知ってもらうための当社オリジナルの教育活動です。ロート社員が中学・高校などへ赴き、出張授業を行っています。簡単な模擬実験を取り入れながら、薬の基礎知識や添付文書の読解法、目薬の正しいさし方などを楽しく分かりやすく講義しています。

この薬育活動は、部門を越えて社員が自主的に集まり2005年に結成された社内プロジェクト「ARK(=明日のロートを考える)プロジェクト 社会貢献チーム」の提言で生まれました。現在では様々な部門の社員が集まり、関東・近畿・東海地区で継続的に「薬育」活動を行っています。



「目薬の正しいさし方」の実践風景

■ひと口390円(サンキュー)からのチャリティー募金。盲導犬育成やブラインドサッカーを支援。

2003年に発足した「かるがも基金」は、ひと口390円(サンキュー)からの社員有志による積み立て基金と会社からの支援をあわせたものを原資とし、毎年、社会に必要とされる福祉や環境活動に役立てるチャリティー基金です。基金額は年々伸びており、盲導犬・聴導犬の育成支援や視覚障害者の方が行うサッカー「ブラインドサッカー」の支援などを行っています。



盲導犬



ブラインドサッカー

創業者 山田安民が奈良県立盲学校の設立を支援。ヘレンケラー女史の訪問も。

当社の「目」への想いは深く、様々な社会貢献活動を続けており、古くは創業者の山田安民が奈良県立盲学校(当時の私立奈良盲啞(もうあ)学校)の設立を支援したことに始まります。

安民は「何事も公共の仕事をするには、私利私名を捨てて…」が信条でした。のちに初代校長となる小林卯三郎氏から「奈良県には盲学校がないからぜひとも設立したい」との相談を受け、小林氏に設立資金などを援助しました。そうした支援が実り、1920年(大正9年)4月、奈良県初となる盲学校「私立奈良盲啞学校」は設立されました。

1937年(昭和12年)5月には、盲人教育に熱心な安民の姿勢に感銘を受け、ヘレンケラー女史が来日した折に安民を訪ねて、奈良を訪れています。

奈良で鹿とたわむれるヘレンケラー女史(左)＝昭和12年5月



OTC目薬の種類

現在、日本では数多くの目薬が販売されていますが、OTC(over the counter:薬局で購入できる処方箋のいらない薬)目薬は、その効能により主に次の4つのタイプに分類されます。

①一般点眼薬(複合型点眼薬)

疲れ目や充血、目のかゆみ、目やにが多いとき、眼病予防など薬効範囲が広いのが特徴です。さまざまな有効成分が配合されていることから、複合型、カクテル型とも呼ばれています。スタンダードタイプの『新V・ロートEX』、若者向けの『ロートジー ファイニュー』『ロートリセa』、子ども用の『ロートこどもソフト』、中高年向けの『ロートV40タウ』、アレルギー症状向けの『ロートアルガード』、OA向けの『ロートPRO』など多くの目薬が複合型点眼薬です。



②涙液型点眼薬

涙に近い製剤に調整されているのが涙液型です。涙液の補助をすることで、ドライアイ(目の乾き)に効果的です。

『なみだロートドライアイ』や全ての種類のコンタクトをつけたまま使用できる『ロートCキューブ』シリーズや『ロートドライエイド コンタクト』などがあります。



③抗菌型点眼薬

抗菌型はサルファ剤を配合し、ものもらいや細菌性の結膜炎に用いられます。『ロート抗菌目薬EX』や『ロート抗菌目薬 i』がこれにあたります。

ものもらいや結膜炎の症状が出ているときのみ使用し、治ったら中止します。また3~4日さしても症状が改善しない場合は、眼科を受診することをお勧めしています。



④洗眼薬

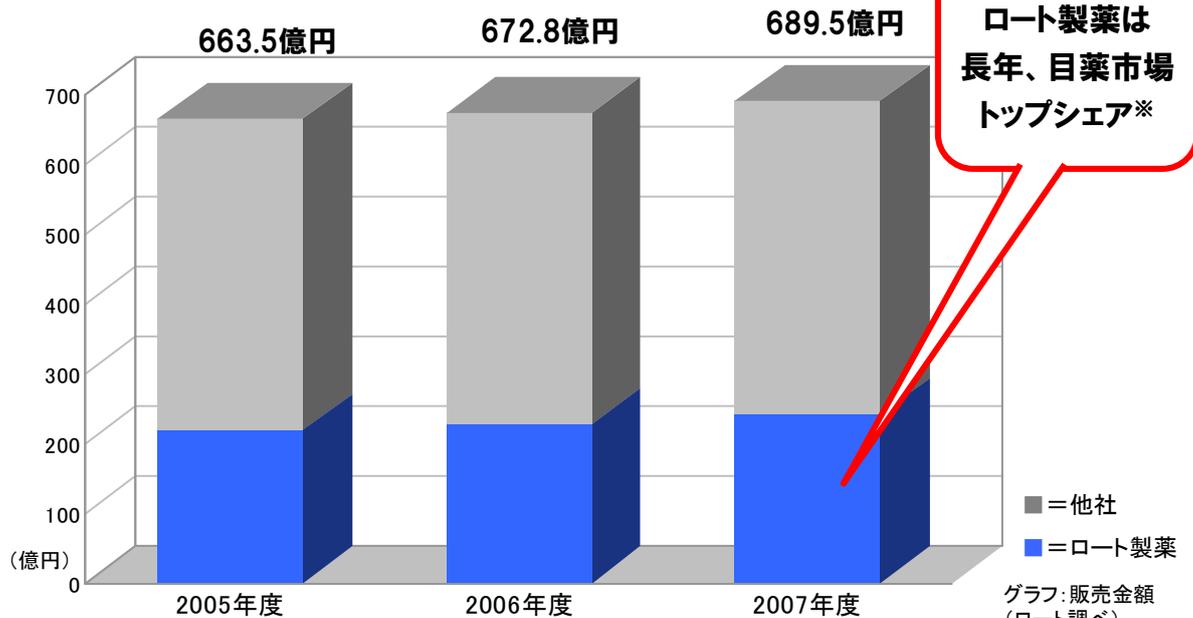
目の表面に付着したゴミ、汚れ、花粉などを薬剤で洗い流す洗眼タイプのもので、「ロートフラッシュ」シリーズや「ロートCキューブ洗眼薬」シリーズなどがあります。



OTC医薬品の目薬市場

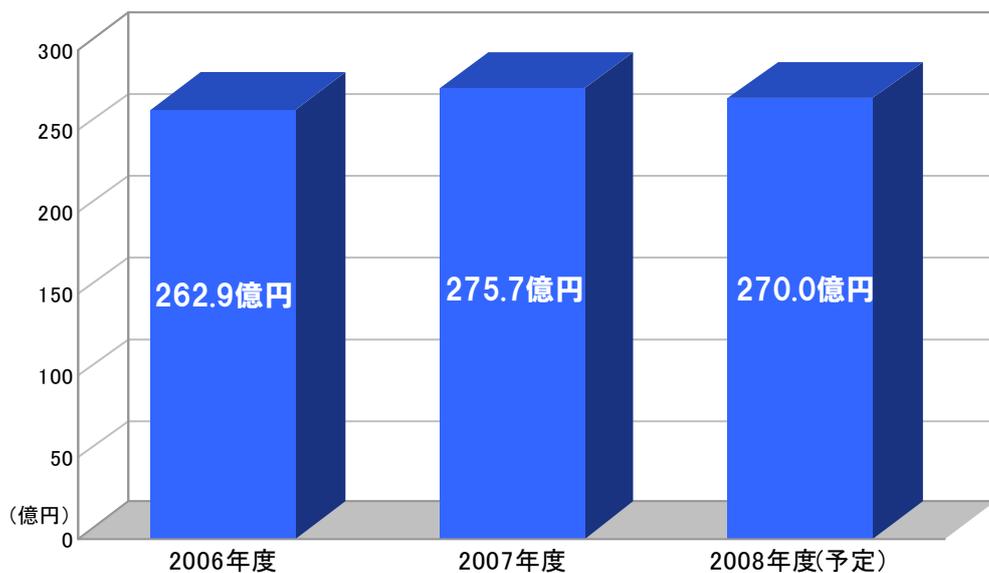
OTC医薬品の目薬市場は2007年度は約690億円に達し、コンタクトユーザーやドライアイの増加などに伴いやや上向き傾向となっています。ロート製薬のアイケア製品はそのうち1/3強のトップシェアを占めています。ロート製薬は市場のトップメーカーとして、セグメント目薬や付加価値型目薬を提案し、他社にはない総合的なラインナップで市場を牽引・拡大し、お客さまの目の健康をサポートしています。

■OTC医薬品の目薬市場推移



※販売金額ベース/(株)インテージ調べ、SDIアニュアルレポート 1973年~2007年

■ロート製薬のアイケア関連売上推移(連結)



出荷金額ベース

目薬の正しいさし方

目薬の正しいさし方

① まず手を洗って清潔に



手に付いた汚れを落とすため、必ず石けんでいねいに洗いましょう。その後、しっかりすすぎます。

② 片手であかんべえをする



顔をしっかり真上に向け、目薬を持っていない方の手で下まぶたを軽く引き下げて、あかんべえの状態にします。

③ まつげやまぶたに触れないように点眼する



あかんべえの状態で目薬の容器の先が、まつげやまぶたに触れないように気をつけて、指定の分量を目にさします。

④ しばらく目を閉じる



目薬をさした後は、1分くらい軽く目頭を押さえじっと目を閉じているのが効果的です。それから目のふちや皮膚についた余分な点眼薬をティッシュ等でふき取って下さい。

小さな子どもにさしてあげる場合は、あお向けに寝かせるのがベスト。お母さんのひざの上なら安心です。



— [本資料に関するお問い合わせ先]

ロート製薬株式会社 広報調査室

大阪オフィス 矢野絢子、西脇純子 Tel.06-6758-1211 Fax.06-6758-9820

東京デスク

Tel.03-5442-6074

広報調査室大阪・東京共通メールアドレス pr@rohto.co.jp